

北海道大学の現況 1

- H16.6 NII・IRP参加
学術情報ポータル検討WGの設置
- H16.6- IRシステム(DSpace)構築
- H16.7- 国内外事例調査
学内情報発信状況調査
- H16.10 報告書の作成
→ 館内事務部合意



学術情報ポータル検討ワーキング・グループ

● 報告書関係

- 事務部報告書 [報告書本文](#) [表紙・目次](#) [資料1](#) [資料2](#) [資料3](#) [資料4](#) [資料5](#) [資料6](#)
 - 事務部報告書概要 [報告書概要](#) [概要表紙](#)
 - [上記全体の圧縮ファイル](#)

 - 「学術情報の発信に関するアンケート調査(集計)」 [簡易版](#) pdf [詳細版](#) pdf
-

● 規程・マニュアル類

- [登録規程\(案\)](#) (別紙1) [要約版](#), [詳細版](#)
-

● サブワーキング・グループ

2005.1.6-

- [実験運用準備グループ](#)

2004.10.28 -

- [緑化誌掲載論文調査グループ](#)
- [学内アンケート調査グループ](#)

2004.7.6 - 10.28

- [有効性検証グループ](#)
- [先行事例調査グループ](#)
- [コンテナ調査グループ](#)

北海道大学の現況 2

- H16.11- 情報発信に関するアンケート調査
緑化雑誌掲載論文調査
- H16.12 利用規程・投稿規程類の検討
- H17.1 アンケート調査結果の公開
466/2142人(22%)
緑化雑誌掲載論文リストの完成
3,174件(2003-04)

今後の取り組み 1

★機関リポジトリ運用実験(2月～5月)

- ・実験版の運用方法、各種規程、マニュアル類の準備。
- ・広報 + アンケート調査結果
→学内教員への協力要請

今後の取り組み 2

★試行運用への作業

- ・運用実験の結果報告書を作成
→運用方法、各種規程類の改正
- ・学内合意の形成
- ・ソフトウェア・ハードウェアの見直し
- ・初期コンテンツの登録

TEST of DSpace at Hokkaido University >

検索 DSpace:

 Go[詳細検索](#)[→ ホーム](#)

ブラウズ

[→ コミュニティ
& コレクション](#)[→ タイトル](#)[→ 著者](#)[→ 日付](#)

ログインが必要:

[→ 新着情報通知の
設定を見る](#)[→ My_DSpace
申請者のみ利用可](#)[→ プロファイル修正
パスワード変更等](#)[→ ヘルプ...](#)

北海道大学学術機関リポジトリ(実験版)

現在、附属図書館による実験運用の準備中です。学外には公開していません。

検索

言葉を下のboxに入力して「Go」をクリックすると検索できます。

 Go

コミュニティー一覧

名前をクリックすると配下のコレクションやコンテンツが一覧できます。

[01 文学研究科](#)[02 教育学研究科](#)[03 法学研究科](#)[04 経済学研究科](#)[05 理学研究科](#)[06 医学研究科](#)[07 歯学研究科](#)[08 北海道大学病院](#)[09 芸術研究科](#)

DSpace

北大実験 運用準備 中

ご意見は北海道大学附属図書館までお願いします。

[←北大リポジリ
実験版\(DSpace\)へ](#)

北海道大学学術機関リポジリ実験版 支援ページ

[機関リポジリとは?](#)[登録規程\(作成中\)](#)[利用申請](#)[登録マニュアル](#)[FAQ](#)[参考資料\(作成中\)](#)[お問い合わせ](#)

附属図書館では現在、学術機関リポジリシステムの本学における有効性の検討を進めており、平成16年11月～12月には本学所属の教員全員を対象として「学術情報の発信に関するアンケート調査」を実施いたしました。その[調査結果](#)の分析、お寄せいただいた貴重なご意見・ご要望をもとに、学術機関リポジリ構築における具体的な方法や問題点等を検討するため、この度、**北海道大学学術機関リポジリ実験版(通称: 北大リポジリ実験版)**の運用を開始いたしました。是非多くの方々にご参加いただき、忌憚のないご意見・ご要望をお寄せいただけましたら幸いです。

- 北大リポジリ実験版の運用期間は**平成17年2月21日～5月31日**、アクセスは**学内限定**です。なお、試行運用に向けての実験を行うことを目的として構築・運用されるため、**実験版における登録資格、登録資料、登録・利用方法等は試行版のものとは異なる場合があります**ので、ご了承下さい。
- 北大リポジリ実験版では、リポジリシステム構築用ソフトウェアとして、[DSpace](#)を採用しています。DSpaceは、MIT図書館とヒューレット・パカード社によって共同で開発され、多くの学術機関リポジリにおいて使用されているシステムです。

★**北大リポジリ実験版**についての詳細は「[登録規程\(作成中\)](#)」、参加方法については「[利用申請](#)」をご覧ください。

[←北大リポジトリ
実験版\(DSpace\)へ](#)

北海道大学学術機関リポジトリ実験版 支援ページ

[機関リポジトリとは?](#)[登録規程\(作成中\)](#)[利用申請](#)[登録マニュアル](#)[FAQ](#)[参考資料\(作成中\)](#)[お問い合わせ](#)[Home](#) > [FAQ](#)

FAQ 「機関リポジトリって何？」にお答えして

未だ耳新しい言葉「機関リポジトリ」への疑問・質問をお寄せ下さい。

リポジトリ[構築の意義](#)から、北大リポジトリ(実験版)への[登録の実際](#)まで。

[I] 機関リポジトリ全般について

● 何故、機関リポジトリか？ 商業雑誌への投稿など既存の公開で十分では？

機関としてリポジトリを構築する意義としては次のような社会的要因があります。ひとつには、インターネットのグローバルな普及や学術情報の急激な電子化等を基盤として、研究機関がその所属する研究者等の活動成果を永続的に保存し、ネットワークを介して広く公開することにより、機関の活動の説明責任、社会的認知度・評価の向上を図ろうとする戦略的な意図があります。更に研究・教育活動の成果をいわば社会全体の公共財として位置付け、無償で公開することを通じて社会に還元していかうとするオープン・アクセスの考え方が広まってきたことも大きな要因となっています。例えば、英国下院科学技術委員会は2004年7月に報告書を出して、雑誌価格の高騰と図書館予算の逼迫により、研究に必要な科学雑誌の配置が不満足なものとなっていると指摘し、研究成果へのアクセスを改善するため、全ての高等教育機関が機関リポジトリを設置できるように支援すること、公的資金の投入された研究成果については誰もが無料で利用できるようにリポジトリへの登録を義務付けること等を柱とした勧告を行っています。米国でも2004年7月14日、下院歳出委員会が2005会計年度予算案承認に伴い、国立衛生研究所(NIH)が助成した研究成果について、出版6か月後に掲載論文をPubMed Centralに収録し、誰にでもアクセス可能とすることを義務付けること、また、学術雑誌の価格上昇を抑えるために、学術雑誌の価格を抑制する